

日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL.03-3503-2722 <https://www.jnpc.or.jp/>



針路は

左から共産、国民、中道、自民、維新、参政、れいわの7党代表が一堂に会した
=1月26日、日本記者クラブ10階ホール
撮影：津野 義和

予想アンケートの予想超え 衆議院選前の党首討論会

新年互礼会員懇親会の余興として始まった日本記者クラブの予想アンケートは、新年会とともに回を重ねてきた。毎年、1月末まで回答を受け付ける。

今年の第2問は「衆議院の解散・総選挙が実施（される・されない）」だった。第1問はこのところずっと、年末の日本の首相の名を問うているので、この年ならではの最初の問題と言っている。問われれば多くの人が「されるでしょう、それは」と答えたように思う。でも、新年会開催の1月23日に衆議院が解散され、結果が回答期間中に判明してしまっただけで問題自体が無効になるとは、予想アンケートを作る側も予想できなかった。

かくして、7党代表が一堂に会する党首討論会が、その新年会の3日後に開かれた。「解散報道」が出てからの短い間に、招く党の要件や質問団の構成を含めた開催要領を企画委員会にはかり、開催の日取りを政党側と折衝、会場の準備に会員への連絡、質問団との打ち合わせと、どこかの政党が言われたような突貫工事だった。それをてきぱきとこなす事務局の面々は心強い限りだったが、実際に目の前にずらりと代表が並んだ時は、肩の力が抜けた。

事務局にきて約5年の間に、5回目の党首討論会。今回登壇した7人の中で、2021年の衆議院選前の討論会の場にいたのは玉木雄一郎さんだけだった。そして田村智子さん、大石晃子さんが7人の両翼に、高市早苗さんが中央に陣取ったことにも、時の移り変わりを感じさせられた。（専務理事 江本慎吾）

衆院選 7 党党首討論会

論点深掘り意識 手応えも

伊藤 宏 (朝日新聞社
論説委員)

突然の衆院解散に、中道改革連合の結成、解散から投票日まで戦後最短となる選挙日程——。政局の急な展開に加え、内外に課題が山積み、聞くべきことは山ほどあった。

その中で、代表質問団が意識したのは、論点の深掘りだった。山ほどある課題を、あれもこれもと網羅的に問えば、党首らは、これまでの説明をなぞるだけで終わりがねない。今回は、①党首としての基本姿勢



代表質問を担当した奥村茂三郎、佐藤千生子、橋本五郎、伊藤宏の各企画委員(写真左から)

や政権の枠組み②消費税を軸とする経済・財政③外交・安全保障。この三つに重点を置き、厳しい突っ込みや再質問を重ねることで、党首らの考え方の輪郭を浮かび上がらせることに主眼を置いた。一定の手応えはあった。高市早苗

減税一色 気を吐いた動画

奥村茂三郎 (日本経済新聞社
上級論説委員)

党首討論会の数日前、入社2年目の政治記者と一緒に取材する機会があった。聞けば国政選挙は3回目、首相は3人目だという。

かくいう私も昨年7月の参院選8党党首討論会から自民党総裁選を挟み、半年あまりで3回目の代表質問となる。まさに濃密な経験であり、光栄であると同時に日本政治の不安定さと劣化が心配になる。

経済紙記者の視点から今回の衆院選を特徴づけるとすれば「減税ポピュリズム」であろう。竹下登内閣が消費税を導入したのは1989年4月1日。不人気政策と知りながらも

首相に繰り返し聞くうちに、与党で過半数を取れなければ「即刻退陣する」と述べたり、国民民主党に連立入りの「プロポーズ」をしたりした。経済や外交安保でも、党首らに問い詰めるほど議論が深まった。

ただ、時間の制約であきらめざるを得ない質問も数多くあった。議論を深めつつ、多様な関心にどう答えるか。二者択一ではなく、今後知恵を絞って最適解を追求したい。

(代表質問担当)

高齢社会を支える基幹税として税率を引き上げ、社会保障の安定財源に育ててきた自民党にとっては基本政策のコペルニクスの転換となる。

壇上の7党党首の全員が減税を語るなかで、唯一、気を吐いたのは登壇基準に達せず1分間の動画となった4政党のなかの1党首だった。

少数意見の尊重は多数決原理を補う民主主義の根幹である。登壇できる政党は公正なルールで厳格に絞って議論を活性化させつつ、少数政党にも意見表明の機会を保障する。難しいバランスを保っていききたい。

(代表質問担当)

実施要領メモ

▼日時…1月26日(金)13:00~15:10(公示1月27日)10階ホール▼登壇者…高市早苗自由民主党総裁、野田佳彦中道改革連合共同代表、藤田文武日本維新の会共同代表、玉木雄一郎国民民主党代表、神谷宗幣参政党代表、田村智子日本共産党委員長、大石晃子れいわ新選組共同代表▼進行…【第1部】(約60分)7党首が「一番訴えたいこと」をボードを用いながら主張(持ち時間1分)。その後、党首同士の討論。相手を指名して質問、相手が回答(各1分)、質問者がさらにコメントする(30秒)の形式で2巡行った。【第2部】(約70分)Ⅱ企画委員の代表が質問(回答時間は1分)▼総合司会…小栗泉企画委員、第1部司会…山下毅企画委員、代表質問者…橋本五郎、伊藤宏、佐藤千生子、奥村茂三郎の各企画委員▼参加者数…会場(スチル・ムービー含む)195人、オンライン122人▼NHKが地上波で生中継。民放の中継代表は日本テレビ。ムービーはテレビニュース映画協会代表(テレビ朝日、TBSテレビ)、東京写真記者協会代表(共同通信社)など9社14台▼スチルは東京写真記者協会(8社取材・スポーツ紙代表)、在日外国報道協会代表(Anadolu Agency)▼参加政党の一部が公式のスチル、ムービーを入れた▼会員向けにライブ配信を行った。日本記者クラブ写真撮影は津野義和氏。▼第1部終了後、政党要件のいずれかのみを満たす原口一博減税日本・ゆうこく連合共同代表、百田尚樹日本保守党代表、福島瑞穂社会民主党党首、安野貴博チームみらい党首の主張を動画で紹介した。

左から田村智子、日本共産党委員長、玉木雄一郎、国民民主党代表、野田佳彦、中道改革連合共同代表、高市早苗、自由民主党総裁、藤田文武、日本維新の会共同代表、神谷宗幣、参政党代表、大石晃子、れいわ新選組共同代表



バタバタ、トラブるなく

日本記者クラブの2026年は、米大リーグ・ブルージェイズへの移籍が決まった岡本和真さんの記者会見が始まった。3連休の真ん中の1月11日、日曜日という、異例の幕開けになった。その時、すでに高市早苗首相が通常国会冒頭での衆院解散を検討、という報道があり、記者会見を担当する事務局員は公示日の可能性と、クラブ10階ホールの使用可能日をにらみながら、党首討論会の開催の準備を始めた。

クラブ主催の記者会見について話し合う企画委員会は14日に開催された。各社の報道では、冒頭解散は確定的な様相となっていた。企画委員会では、党首討論に招く政党の要件について話し合い、昨年の参院選時の討論と同様に、どちらか一方を満たせば国政政党となる要件「国会議員5人以上が所属」「直近の国政選挙で2%以上の得票があった」を、ともに満たす政党を招くことにした。また、参院選と同じ顔触れの代表質問で今回も臨むことが確認された。

27日の公示が見えると、事務局の担当は26日の討論会開催を決め打ち

して各党に呼び掛けるしかなかった。「いつ開催するのか」と問い合わせが各方面からくる中、開催まで1週間を切ってやっと26日が正式決定した。

常在戦場を旨とする政治家たちも今回は大わらわだったようで、政党に連絡しても打ち返しが無い状況が生じた。招く政党の要件を満たさずに代表が登壇できない減税日本・ゆうこく連合、日本保守党、社会民主党、チームみらいには、それぞれのビデオメッセージを討論会の中で流す用意があると伝えていたが、4党のメッセージがそろったのは、開催当日だった。

かわる全ての人たちがバタバタだった割には、あるいは皆が同様にバタバタだったからこそなのか、大きなトラブルなく開催にこぎつけた。26日午後1時過ぎ、老川祥一理事長が「国際情勢が大きく変動している中で日本の針路に大きな影響を与える選挙になる。有権者が誤りがない選択ができるような明確な所見、判断材料を与えていただきたい」とあいさつし、討論会は始まった。

(江木)

目次

▼7党党首討論会	23
▼今月のクラブゲスト	4
▼会見リポート	46
岡本和真 米大リーグ・ブルージェイズ選手 ／城内実 経済財政担当相／片山さつき 財務相／中空麻奈 BNPパリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長	
▼記者ゼミ	6
▼ワーキングプレス	79
米がベネズエラを攻撃 中国軍、台湾周辺で大規模演習 「核保有」めぐるオフレコ発言	
時事通信社 樋口悠 産経新聞社 西見由章 朝日新聞社 松田京平	
▼被災・防災・減災 最前線	10
大分市佐賀関の大規模火災 大分合同新聞社 乙咩啓太郎	
▼リレーエッセー	11
加賀田清子さん 胎児性水俣病患者 熊本日日新聞社 熊川果穂	
▼書いた話書かなかった話	1213
昭和天皇にまつわる取材 書けなかった「腸のご病気」 書きに書いた石橋親書の謎	
倉重篤郎	
▼新年互礼会員懇親会	14
▼MAY BOOK MAY PR	15
▼写真回廊	18

日本記者クラブの会見場は終始、和やかな空気に包まれていた。ブルージェイズ入団が決まった岡本和真の会見。岡本節で笑いを誘うだけでなく、こだわりも垣間見える、らしさが詰まった1時間だった。

「いずれメジャーでプレーするといふのを目標にしていた」と憧れていた夢舞台への挑戦が決まっても、冷静だった。数字上の目標を聞かれ

岡本 和真

米大リーグ・ブルージェイズ選手

「らしさ」が詰まった1時間

1月11日



と「本当に申し訳ないんですけど、特にそういうものはない」と答えた。これは巨人時代から一貫していること。もちろん「最低ライン」は設定しているが「目標を決めちゃうと数字にとらわれちゃう」と口にしてこなかった。目の前の一球、一打席の積み重ねを大事にしているからこそ「まずはコツコツと自分のやるべきことをやって、その日の全力を

出して頑張りたい」と掲げた。日本の伝統球団を背負ってきた誇りがある。巨人の「4番・三塁」としてチームをけん引。「入団した頃からジャイアンツの4番サードについて、いろいろな方から教えていただいた。自分なりにそこをやるようになった時は全うしようと思った」と昨年6月に89歳で死去した長嶋茂雄さんの代名詞であるポジションを守ってきた。長嶋さんには、不振に苦しんでいた2024年の5月下旬に病室に呼ばれ、約40分の熱血指導を受けたこともある。「今までで一番、張り詰めた空気の中ですごく集中し

た40分だった。直接素振りを見てもらったことは今でも忘れることはない」。ミスターの魂を受け継ぐ男が、海を渡る。

日本人内野手の成功例は少ないが「全ポジションレベルが高い。やる前からできるできないなんて分からない」と闘志を燃やす。「まだ何も成し遂げてないのにいいんですかね」と今回の会見に恐縮していた岡本は言った。「次は活躍して呼んでもらえるように頑張りたい」。必ず、また来てくれるはずだ。

スポーツニッポン新聞社スポーツ部

小野寺 大

今月のゲストの皆さん

ゲスト全員の会見レポートは右のQRコードを開きウェブサイトで見られます。出席欄の「会」は会場、「オ」はオンラインの参加人数です。



八代 尚宏さん 昭和女子大学特命教授(右)
鈴木 亘さん 学習院大学教授(左)



内閣府のプロジェクトで結婚行動に関する調査を実施した。夫婦出生率1.9に対して合計特殊出生率1.15(2024年)と差があり、未婚化が深刻だと指摘。調査結果を基に結婚率引き上げのため「同棲関係カップルに婚姻に準じた地位を与える」「自治体の少子化対策費を住居費支援へ集約」などと提言した。

■ 1・21/出席：会15人、オ51人/「人口減少時代を生きる」
⑥ 経済学から見た結婚行動の変化/司会：小林伸年委員

田中 浩一郎さん 慶應義塾大学大学院教授



「現体制の存続にハーメネイ師は不可欠。米軍などが斬首作戦に乗り出し、成功すれば体制崩壊に至る蓋然性は高いが、それで民主化するかは別の話だ」「デモが鎮静化の方向にあるのは同意するが、米国やイスラエルがイランの内部崩壊に向け活動しているとみている」

■ 1・23/出席：会19人、オ68人/「2026年初のイラン危機とその行方」/司会：出川展恒委員

*下記のゲストの会見レポートは4～6ページに掲載しています

岡本 和真さん 米大リーグ ブルージェイズ選手

■ 1・11/出席：会64人、オ22人/司会：宮内正英委員

城内 実さん 経済財政担当相

■ 1・13/出席：会57人、オ54人/司会：菅野幹雄委員長

片山 さつきさん 財務相

■ 1・16/出席：会70人、オ88人/司会：菅野幹雄委員長

中空 麻奈さん BNPパリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長

■ 1・19/出席：会35人、オ42人/「2026年経済展望—激動の世界と日本を読む」①/司会：奥村茂三郎委員

城内 実

経済財政担当相

成長のけん引役に防衛産業

1月13日



高市早苗内閣の閣僚としては、先陣を切ったの当クラブへのお出ましとなった。城内実氏は、高市政権の看板政策「責任ある積

極財政」の司令塔役である。

「サナエノミクス」と呼ばれる経済政策は、「アベノミクス」をバージョンアップしたものだ。積極財政は決して「野放図なばらまき」ではなく、経済安全保障やエネルギー安全保障など「安全保障」を意識し、「リスクや社会課題に先手を打って投資し」、それによって「日本のさらなる成長を実現する」と力説した。

掲げたのがサナエノミクスの肝である「危機管理投資・成長投資」による経済成長策である。半導体、AI、造船など17分野に政策を総動員して経済成長に結びつけるという触れ込みで、この17分野に「防衛産業」

が入っているところが目を引く。「完全保障」「危機管理」と来て、「防衛産業」である。戦後の日本経済のリード役は長年、民生品の平和産業だったが、高市政権は経済成長のけん引役に軍事産業を堂々と明記した初の政権である。

防衛産業による経済成長について、城内氏は「デュアルユース技術の研究開発によって防衛力の強化に貢献できる」と語る。宇宙、AI、半導体など民生品として開発された技術を軍事転用したいらしいが、さて本当に経済成長できるのか。

城内氏は20年余り前、小泉郵政選挙で刺客の片山さつき氏と浜松の小選挙区で争ったときに取材したことがある。彼は当時、片山氏を指して「非常に目立ち、華がある人です」と言い、顔が緊張でこわばっていたことを思い出す。結局、僅差で落選。それを踏まえ、「もうおしまい、勝てるわけがないと言われるなか、毎日こつこつやりました」。すると勝てた。やや牽強付会だが、だから日本経済の成長にもマインドセットが必要という。「皆がそう思えばそうなる」とプラシーボ効果を期待する。その因縁の片山氏も財務相として入閣した。

朝日新聞社編集委員 大鹿 靖明

片山 さつき

財務相

今と未来の国民への「責任」

1月16日

記者会見は衆院解散の見通しが報じられる中で行われた。片山氏は高市政権の掲げる「責任ある積極財政」によって「強い経済」と財政の持続可能性を両立させると強調し、衆院選は経済政策で「国民の審判をいただく」場になるとの認識を示した。

片山氏は財務官僚として女性初の主計官を務めた経歴を持ち、昨年10月、旧大蔵省時代を含めて女性で初めての財務相に就任した。会見では「強いリーダーシップの女性首相のもと、同じく女性財務相として変化に耐えうる財政をマネージしたい」と意気込みを語った。

高市政権は戦略的な財政出動で国内の供給力を高め、所得や消費マインドが改善する好循環を実現する方針だ。予算編成の手綱を握る片山氏は近年の経済環境について、「コストカット型経済から成長

型経済に移行しつつある分水嶺だ」と指摘し、AI(人工知能)や半導体などの戦略分野に積極投資する考えを示した。

積極財政で景気を下支える手法に対しては、金融市場で財政規律の緩みへの警戒感も高まっている。質疑では円安・ドル高基調や長期金利の上昇に関する質問が相次いだ。片山氏からは「財政が持続可能だと証明して、マーケットからの信頼を確保したい」などと、市場を意識した発言も目立った。

ただ、財政健全化の具体策は踏み込み不足だった感が否めない。租税特別措置や補助金の見直しを通じた「ワイズ・スペンディング(賢い支出)方式」で債務残高対国内総生産比の引き下げを目指す方針には触れたものの、改革効果は未知数だ。

片山氏が多用したのが「未来」というキーワードだった。責任ある積極財政も「今を生きる国民と未来の国民両方に対する責任だ」という。背景には厳しい国際情勢の中で、日本経済が衰退すれば国際的な地位も保てなくなるという危機感がある。来たる衆院選で未来への明確な展望を訴えることができるのか。その手腕が問われている。

読売新聞社経済部 土居 宏之



中氏は、2026年のクレジット市場の見通しをテーマに会見。同年は、世界の経済は安定的な成長を継続し、物価に關してもそれほど特異なことではないとして、クレジットも「あまりす

長年、クレジットのアナリストやストラテジストとして債券市場を分析し、政府の経済財政諮問会議の民間議員も務めたBNPパリバ証券の中空麻奈グロバルマーケット統括本部副会長は、日本の財政について「しばらくは良くなるが、この後は確実に悪くなる」と強調した。その上で、「このことをメディアも私も国民に伝え切れておらず、大いに反省をし、今こそ言わなければいけない」と訴えた。

財政「確実に悪くなる」

BNPパリバ証券グロバルマーケット統括本部副会長
中空 麻奈

1月19日

「2026年経済展望」激動の世界と日本を読む①

よいことは起きず、安定した相場になるのではないかとの見通しを示した。

そのような中で、起こりそうもないと考えられるが、起こってしまうと経済や市場に大きな影響を与えるリスクである「グレースワン（灰色の白鳥）」として、トランプ米大統領の政権運営による地政学リスクの増大や原油価格の変動、関税と移民の政策が米国経済に与える影響、人工知能（AI）バブル崩壊と中小企業向け貸し出しを原資とした証券であるプライベートクレジットの市場への連鎖などを検証した。

中空氏は、グレースワンの一つとして、「世界の財政膨張、債券市場と格下げ」も取り上げた。日本は、現状はまだ金利や円相場が低水準な一方、物価や経済成長率は上昇し、企業業績や税収は上がるため、財政を拡大してもそれほど悪化しない「財政ボーンナス期」で、本当はこの2～3年の間に財政健全化を軌道に乗せなければいけないのに、衆院選に向け、主要な与野党がそろって消費税減税を訴えていることを批判。「将来を考えて選挙行動に出ようと、私も頑張つて発信するし、メディアもぜひ発信を」と呼び掛けた。

時事通信社編集委員 小代田 淳一

土曜記者ゼミ

1編⑦

noteの現在地

1・10／講師…徳力基彦 noteプロデューサー、プログラマー／出席…ウェブ21人

個人のSNS発信意味がある

2014年にクリエイターがコンテンツを発表するためのプラットフォームとしてスタートしたnoteは会員数一千万人を超え、記事は6千万件以上、月間アクティブユーザー数は7359万に上る。徳力さんは記者個人のSNS利用に「これまで後ろ向きな大手メディアが多かったと思う。だが、インターネット時代になって個人の名前がある意味はあり、生成AI時代になってますます変わらなう」と強調した。

調査報道⑥

「女子高生コンフリット詰め殺人事件」加害者の「その後」を追って

1・17／講師…山崎裕侍 北海道放送コンテンツ制作センター報道部デスク／出席…会場11人、ウェブ27人

「どう一緒に生きていくか」

山崎さんは1989年に起きた「女子高生コンフリット詰め殺人事件」の加害者や家族ら取材した本を1月に出版した。元「ニューステーション」ディレクターで、2000年から同事件の取材を始めた。当時は少年による凶悪犯罪が相次ぎ

少年法改正の議論が活発だったが、「少年は更生したのか、誰も取材をしていないことに気が付いた」。また事件当時、被害者と加害者の一人は17歳。同世代として「なぜこんな事件を起こしたのか」という疑問があり、関係者への取材を始めたという。

24年、準主犯格の元少年の義兄から連絡を受け、少年が死亡していたことを知った。加害者へのバッシングが続く不寛容な社会などに問題意識があり、「共感できない相手とどう理性を持つて向き合い、どう一緒に生きていくのかを考えるきっかけになれば」との思いで取材したと語った。

サイバー記者ゼミ⑥

「CISOに聞きたい10のQ」企業目標のサイバー報道を考える

1・19／講師…淵上真一 NEC Corporate Executive CISO兼サイバーセキュリティ戦略統括部統括部長、高橋正和 日本ネットワークセキュリティ協会副会長 CISO支援WGリーダー、(株)PeteRed Networksセキュリティアーキテクト／出席…会場28人、ウェブ27人

企業内の情報セキュリティを統括する責任者、Chief Information Security Officer = CISOの2人が登壇し、サイバー攻撃時の対応などを語った。

(すべて事務局)

米がベネズエラを攻撃

樋口 悠(時事通信社ワシントン特派員)

国際秩序 崩れゆく感覚 電光石火の拘束に衝撃

正月気分は一瞬で吹き飛んだ。米東部時間1月3日未明、夜更かししてぼんやりSNSを眺めていると、唐突に「ベネズエラの首都カラカスで複数回の爆発音があった」という投稿が目に入ってきた。米国がベネズエラを攻撃し、マドゥロ大統領を拘束した電光石火の作戦の始まりだった。

攻撃が言われてはいたが

攻撃自体に驚きはなかった。トランプ米大統領が昨年11月から、対ベネズエラ地上作戦に繰り返し言及していたからだ。同時期からカリブ海に配備した米海軍の最新鋭空母も、麻薬密輸船の取り締まりにはあまりに不釣り合いだった。

12月17日にトランプ氏が国民向けにテレビ演説する前には、「対ベネズエラ攻撃を表明する」とのうわさがSNSで流れ、報道各社は準備を迫られた。結局、トランプ氏が1年間の実績を誇示しただけだった。



トランプ米大統領の邸宅「マールアラゴ」で対ベネズエラ作戦を見守るトランプ氏(中央)ら(1月3日/南部フロリダ州パームビーチ/米ホワイトハウス提供)

ただ、ちまたではトランプ氏の本気度をいぶかしむ見方も根強かった。実際、私が今年1月2日に食事を共にした米軍関係者の友人も「トランプは本格的な侵攻はしないだろう。脅しているだけだ」と予想していた。

仮に攻撃するにしても、作戦の内容は事前には全く見当が付かなかった。社内では準備を進めていても、ベ

ネズエラ国内の麻薬製造施設を攻撃するだけか？ 軍事基地も攻撃対象か？ などの議論に終始していた。ベネズエラにはロシア製防空システムなど洗練された兵器があり、戦争が始まってすぐに決着することはないだろうと高をくくっていた。

このため、カラカスでの爆発音の数時間後にトランプ氏がSNSで「マドゥロ氏を拘束した」と発表した時は衝撃を受けた。米軍の作戦能力は予想をはるかに超えていた。

作戦上回る驚きの発言次々

しかし、夜が明けた後に南部フロリダ州で開かれたトランプ氏の記者会見は、拘束作戦の衝撃さえも超える驚きの内容だった。「米国がベネズエラを運営する」と主張し、ベネズエラの主権、石油、全てを我が物にしたかのように振る舞っていたからだ。

トランプ政権のその後の言動も驚きに拍車を掛けた。「軍事作戦」の成功を自慢した直後に、国際法違反との批判をかわすために「合法的な法執行作戦だった」と強弁。かと思えば、ミラー大統領次席補佐官は「力による支配」を表明するなど、無秩序な発言が政権内部から次々と繰り出された。

ホワイトハウスが公表した作戦の様子を見守る政権幹部を写した写真は、オバマ元大統領が2011年にウサマ・ビンラディン容疑者を殺害した作戦を見守った写真とそっくりだった。ただ、「法執行作戦」との主張にもかかわらず、ボンディ司法長官やパテル連邦捜査局(FBI)長官の姿は見えなかった。

作戦の成功に気を大きくしたのか、トランプ氏の軍事的冒険心は歯止めがきかなくなった。キューバやコロンビア、メキシコなどに對する軍事介入を主張し、イランへの攻撃も示唆。さらには北大西洋条約機構(NATO)に加盟する同盟国デンマークの自治領グリーンランドの領有まで要求している。

ベネズエラではロドリゲス暫定大統領が対米協調を選び、これまで大きな混乱は生じていない。しかし、同盟国が敵対国のように振る舞い、独立国家の主権が「米国の国益」の名の下に踏みにじられていく。戦後の国際秩序が音を立てて崩れていくような感覚になりながら、2026年が平和な年になるよう祈念した元旦が遠い昔のことのように思えた。

(1月24日記)

ひぐち・ゆう▼2003年入社 大阪支社編集部 経済部 政治部 ロンドン特派員などを経て 22年から現職

中国軍、台湾周辺で大規模演習

西見 由章（産経新聞社台北支局長）

間合いを詰める中国軍 「認知戦」も新たな段階に

中国海軍ミサイル駆逐艦「ウルムチ」の乗組員が、緊張した声色で台湾軍のフリゲート艦に呼び掛けた。

「そちらが火器管制レーダーをわが艦に何度も照射したのを確認した。ただちに挑発行動を停止せよ。さもないと敵対行為とみなし、一切の結果はそちらが負うことになる」

中国軍で台湾方面を管轄する東部戦区が昨年12月末、台湾を取り囲む



台湾周辺で行われた軍事演習に参加した中国海軍ミサイルフリゲート艦「安陽」(奥)を監視する台湾海軍フリゲート艦の乗組員(台湾の国防部提供)

形で「正義の使命—2025」と題した大型軍事演習を実施した。

台湾の国防部(国防省に相当)によると、台湾が設定する接続水域(領海基線から24海里まで)に中国の軍艦11隻が進入。冒頭のウルムチ艦はその1隻で、台湾軍艦との無線のやり取りの音声は台湾の民間SNSアカウントが暴露したものだ。台湾メディアは「悪人は先に自分こそ被害者だと訴え出る」という警句とともにやり取りを大きく報じた。

「サラミスライス戦術」前進

台湾の国防部は記者会見で、この音声について問われ「中国共産党の軍艦が24海里に入った後、防衛的な警告措置を取った」と説明、レーダー照射を否定しなかった。中台の軍艦が対峙した現場では緊張が相当高まっていた可能性がある。

中国軍は演習で、軍事行動を徐々にエスカレートする「サラミスライス戦術」を前進させた。福建省に配

備した長射程多連装ロケット砲「PCH191」から実弾計27発を発射し、うち10発が台湾の南西沖の接続水域に着弾した。台湾紙の自由時報は着弾地点が台湾本島から「過去最短距離」だったと伝えている。

中国軍は台湾への「間合い」を詰め続けており、中台両軍の神経戦は激化する一方だ。不測の事態を生む危険性は高まっている。

偽情報と断じ「阿Qのよう」

中国による認知戦も新たな段階に入った。東部戦区が公表した殲20ステルス戦闘機の飛行動画を巡り、「眼下の風景から判断して台湾南部の恒春半島周辺の上空を飛行しており、台湾軍は探知できなかった」との情報がネット上で拡散。また中国国営中央テレビは、中国の無人機が台北市の高層ビル「台北101」を撮影したとされる映像を放送した。

台湾軍の対応能力に疑念を抱かせ、「投降」論を生み出す狙いがあり、台湾当局はいずれも「偽情報」だと断じている。台湾の安全保障当局者は殲20の「領空侵犯疑惑」についてこう語った。「あり得ない。はつきりしているのは、もし進入が許されない空域に(中国軍用機が)入れば7日後に帰宅するということだ。こ

れは保証できる」。領空侵犯すれば初七日に魂が帰る、つまり撃墜されて死ぬのは確実だという。

この当局者は、中国軍の演習の狙いとして、奇襲的な演習により台湾側が対応できていない印象を生み出し、さらに何らかの形で台湾の「封鎖」を実現してパニックを引き起こすなどの目標があったが、いずれも失敗したと強調した。中国による偽情報については「魯迅の阿Qのようだ」と皮肉った。小説『阿Q正伝』の主人公のように、敗北しても都合よく自分の勝利と思い込んで自尊心を保っているというわけである。

ただ厄介なのは、台湾の一部の退役軍人や論客、親中メディアなどにも中国発の情報に乗っかる動きがあることだ。殲20の領空侵犯疑惑などは完全に解消されたとはいえない。

今後、もし中台間の軍事力格差がさらに拡大し、台湾の国際的な孤立感も深まった場合は何が起きるのか。中国に対抗しようとする台湾当局こそ「阿Q」のようだ。台湾の世論がそうした投降論に傾く恐れもゼロではない。

にしみ・よしあき▼2001年入社 和歌山支局 大阪社会部 中国総局長などを経て 24年から現職

「核保有」めぐるオフレコ発言 松田 京平（朝日新聞社政治部長）

記事化は報道機関の責務 ニユース性、公益性を判断

記者は取材相手の言葉にどれだけ敏感に反応できるかが勝負だ。2025年12月、首相官邸幹部が発言者の実名を明かさない条件で開かれた場で、「日本は核保有すべきだ」と発言した。発言にニユース性があれば、報道しなければならぬ。朝日新聞の記事をめぐる、様々な批判やご意見をいただいたが、記事化は報道機関としての責務だと考えている。

首相官邸幹部による発言があったのは、25年12月18日午後。首相官邸で10社を超える記者が集まり、発言者の実名を明かさない条件で報じられる非公式取材に応じた場だった。幹部は、日本を取り巻く厳しい安全保障環境を踏まえ、個人の見解として、「日本は核兵器を保有すべきだ」との考えを示した。実際に政権内で議論を進めているわけではなく、核不拡散条約（NPT）体制との兼ね合いなどから実現は難しいとも指摘した。非核三原則の見直しは、政治的な体力が必要になるとの見方

も提示した。

この幹部は、高市早苗首相に対し安全保障政策などについて意見具申をする立場にある。政府見解と異なる発言であり、朝日新聞から出席した記者も、報告を受けた官邸キャップ、担当デスクもニユース性や公益性が高い内容と判断した。

実名は明かさないルール

朝日新聞は18日午後9時26分にデジタル版で報じた。記事は匿名としつつ、幹部が首相に具申できる立場であることを明記。できる限り本人の発言を余さず伝えることに留意した。

各社も同日夜から翌日にかけて報道。翌19日には、自民党の中谷元・前防衛相らが公然と発言を批判したほか、立憲民主党の野田佳彦代表や被爆地広島県の選出でもある公明党の斉藤鉄夫代表（当時）ら野党幹部が更迭を求めるなど波紋は広がった。今回の報道に関して、主に2つの



記者会見に臨む木原稔官房長官（2025年12月19日／首相官邸／朝日新聞社提供）

論点があると思う。一つは非公式取材のルール、もう一つは「なぜ匿名なのか」という点だ。

政治取材の現場では、非公式取材として発言者の実名を出さずに発言を引用できる「オフレコ」と、発言そのものを一切報じることなく背景事情などを説明する「完全オフレコ」がある。今回の取材は前者であり、朝日新聞は実名を出さずに発言を報じた。ルールに沿って報じるべきことを報じたと認識している。

しかし、一般読者にはオフレコをめぐる取材・報道のルールはわかりにくい。記者クラブに対する不信任感もある中で、匿名報道に対する批判があることは受け止めなければなら

ない。

一方、例えば外交や安全保障分野などを中心に、記事にはできなくても背景事情として知っておくべき情報を取材対象者から得ることは、知る権利に資する大切な機会だ。メディア側だけでなく、政府側もミスリードを避けるために大事な機会ととらえている。それは権力とメディアの癒着ではなく、緊張関係の中で成立させるべきものなのだ。

たゆまぬ検証続けたい

そのためにも、非公式取材であってもニユース性がある発言があれば、報じていく姿勢は欠かせない。メディアとしての信頼性を担保するためにも、報じるべきは報じるという姿勢を失ってはならないのである。SNS全盛時代、こうした報道は常に批判を覚悟しなければならぬ。その際、読者の理解を得るために、報道機関として積極的に説明責任を果たしていくことも必要になるだろう。今回の事例を踏まえ、今後ともたゆまぬ検証を続け、あり方を考えていきたいと思う。

まつだ・きょうへい▼1995年入社
宮崎支局 盛岡総局 政治部次長 千葉
総局長 セネラルエディター補佐などを
経て 2023年5月から現職



大分市佐賀関の大規模火災

「強風」「密集」燃え移る

声かけ避難 犠牲防ぐ

乙咩 啓太郎

(大分合同新聞社報道部編集委員)

高級ブランド魚「関あじ」「関さば」で知られる大分市佐賀関の漁師町を猛火が襲った。2025年11月18日夕方。火は瞬く間に燃え広がり、住宅や空き家など計194棟が焼け、火元の民家で高齢男性1人が亡くなった。

火勢は折からの強風で拡大した。大分県試算によると、当時の風速は15メートルに達した。風にあおられて東側に延焼し、約1・5キロ離れた沖合の無人島にも飛び火。焼損面積は約6・4畝に及び、市街地で発生した火災としては平成以降で国内最悪の惨事となった。

建物が密集していたことも被害を

拡大させた。現地は方言で「せど」と呼ばれる幅1メートルほどの細い路地が入り組んでおり、火は近接する建物に次々と燃え移った。大型の消防車は狭い道から進入できず消火活動に苦戦したという。

■スマホの映像 街中が炎に

当日、弊社に火災発生 of 第一報が入ったのは午後5時45分。消防から報道機関向けに発出されるメールだった。夜勤当番の記者が消防局に確認を入れると「火災報知器の誤作動などではない。火が出ているのは間違いない」と返答があった。

佐賀関は大分市内ではあるが、本社ビルのある市中心部からは車で40分以上かかる。1人しかない夜勤記者を派遣するのは、ほかの突発事件が起きた場合を考えるとややためらわれたが「万一の事態もある」と思い、現地向かってもらった。

到着した記者からの報告は、私の想定した「万一の事態」をはるかに超えていた。「取り急ぎ、動画を見てください」とスマートフォンに届いた映像を確認すると、街中が燃え盛る炎に包まれていた。

高台に登って全景を撮影するといふ記者に、安全確保を最優先するよう伝えた後、すぐに応援記者の派遣

を決めた。写真映像部、報道部、佐賀関エリアを受け持つ地域報道部の記者らが2人一組で現地に入った。近隣支局の記者も投入し、降版時間ぎりぎりまで情報を収集した。

■被災者の声 届け続ける

火災は離島の消火に手間取り、鎮火まで16日を要した。焼け出された被災者らは近くの市民センターに身を寄せ、最大180人が避難生活を強いられた。避難所には全国から報道陣が殺到し、市は発生から数日後、「被災者からの要望」を理由に施設内での取材を全面禁止とした。

被災者の声を直接聞くことが難しい状況となったが、外出する機会を



燃え盛る炎に包まれた住宅地 (2025年11月18日/大分市佐賀関/大分合同新聞社提供)

捉えて短時間で話をうかがうなど地道な取材を重ね、被災者の抱える思いを報道し続けた。

地元の大分大学の研究チームが実施した聞き取り調査では、発災直後の住民同士の声かけが迅速な避難行動につながったとされる。住民は「小せえ頃からみんな知っちゃん。家族みてえなもん。一人も取り残せんとした」と当時を振り返る。長年かけて培った地域の絆が、未曾有の大火にあつて犠牲者を最小限に食い止めたと言える。

発生から3カ月近くがたち、現地では被災建物の公費解体が進んでいる。避難所は年末に閉鎖され、被災者の多くは市営住宅などで仮住まい生活を送っている。市は2年後をめどに現場近くに復興市営住宅の建設を計画。完成までの間、仮住まいに分散する被災者同士の絆をいかに守っていくかも課題となっている。

佐賀関は大分市内でも高齢化率が高く、復興にはスピード感も求められる。家族のように支え合い、助け合って暮らしてきた地域をどう再建していくのか――。地元紙として息の長い取材を続けたい。

おとめ・けいたろう▼1999年入社
編集局別府支社 杵築支局 社会部
佐伯支社などを経て 2021年4月から現職

私が会った
あの人

加賀田清子さん 胎児性水俣病患者 弱者へのやさしいまなざし

熊川 果穂(熊本日新聞社)

大学生の時、ゼミ合宿で訪れたことがきっかけで、熊本県水俣市に通っている。もう12年になる。まだ水俣病担当になったことはないが、熊本の地方紙で働いていればいつかは…と通い続けている。交流している胎児性水俣病患者の方たちの中で特に心を寄せている人がある。加賀田清子さんだ。

■自分で決断して生きたい

加賀田さんは水俣市月浦出身で、昨年古希を迎えた。水俣病の歴史とともに歩んできた人だ。7歳で患者認定を受け、10歳で水俣市立湯の児病院に入った。ここには水俣病の子どもたちが多くいて、小学校の分校も病院内にあった。16歳からは水俣病患者療養施設「明水園」で暮らした。25歳で自宅に戻って家族と暮らしたが、「家族に頼るのではなく、もっと自分で考えて、自分で決断して生きていきたい」という思いが強か



加賀田清子さん(左)と筆者(2022年5月1日/水俣市昭和町の「きぼう・未来・水俣」/筆者提供)

った。自立したい、ほかの人と同じように仕事をしたいという思いを持った患者仲間とともに、支援者の力も借りて小規模多機能事業所「ほっとはうす」の開設や、熊本県出身の演歌歌手、石川さゆりさんのコンサートなどをやり遂げた。メディアにも出て、水俣病のことを伝え続けてきた。胎児性・小児性水俣病患者ら

が住むケアホーム「おるげ・のあ」の設立にも関わり、今はそこで穏やかに暮らしている。

昔は歩けていた加賀田さんも水俣病の症状が進み、今は車いすで生活している。地元の子どもたちや、今通っている施設「きぼう・未来・水俣」に來た大学生たちに自身の体験を伝えているが、「体力的にしんどい」と県外など長時間の移動を伴う講演を避けていた加賀田さん。昨年、福岡県小竹町の「ちくほう共学舎虫の家」が主催した講演に行った。久々の遠出だった。私も介助ボランティアとして同行した。

■話せない仲間の言葉を代弁

講演で加賀田さんは「もう一度仲間の車いすを押したい。私たちの歩ける足を返してほしい」と訴えた。歩けていたときは、仲間の車いすを押すのが加賀田さんの役割だった。そして、話すことができない仲間の言葉を代弁するのも加賀田さんだ。なんで気持ち分かるのか尋ねられると、「OKの時にはニコニコして、違う時にはしょんぼりしています」と答えた。半世紀以上ずっと過ごしてきた、同じ水俣病だから分かる言葉が加賀田さんにはある。水俣病の

ドキュメンタリー映画を数多く作った監督も「加賀田さんの後を追いかけてなかったら映画を撮れなかった」と話し、加賀田さんが話せない患者の声を伝えてくれたという。講演の最後に加賀田さんは「保母さんになりました」と話した。子どもが大好きだからだ。仲間の車いすを押したり、言葉を代弁したりするのも、自分より弱い、小さい者へのやさしいまなざしがあるからだろう。

水俣病は今年で公式確認から70年を迎える。本紙も現地支局や社会部記者を中心にチームを組んで年間の大型連載などを企画している。加賀田さんと同年代の患者は、鬼籍に入った人が多くなった。加賀田さんから「果穂ちゃんに自分のことを書いてほしい」と言われているが、まだ約束を果たせていない。彼女が元気なうちに、なんとしても生き様を紙面で紹介したい。

(くまがわ・かは 2017年入社
玉名総局 社会部司法警察担当など
を経て 25年から球磨支局)

次号は熊川さんが広島市主催の研修会で知り合い交流のある名倉あかりさん(神戸新聞社)にバトンが渡ります。

昭和天皇にまつわる取材

書けなかった「腸のご病気」
書きに書いた石橋親書の謎

「書かなかった話」ではなく「書けなかった話」からしたい。

◆密談の動き察知したものの

1987年9月のことだ。当時私は政治部記者として、中曽根康弘政権の後藤田正晴官房長官番をしていた。5年間続いた政権末期の幕引き官房長官だった。日本国のスポークスマンとしてのみならず、ポスト中曽根、中曽根政治総括、といった面でも、重要な取材対象だった。

我々番記者はほぼ四六時中、後藤田氏の後を追っていた。まだ官房長官室の中に記者が自由に出入りできた時代だ。秘書官席に座る者もいたし、電話を取る者までいた。

といっても、敵も海千山千。重要な面談は、記者団を巻き、別の場所をセット、こちらが気付かないことも多々あった。普段は誰も住んでい

ない、官邸敷地の奥にある官房長官公邸と呼ばれた古い建物も、時々密談の場として使われた。

ある日のこと、公邸密談の動きを察知、公用車のナンバープレートから、相手が宮内庁長官（当時は富田朝彦氏）であることを突き止めた。この時節何用か、とは思ったが、我が取材はそこで止まってしまった。

後藤田氏の警察の後輩だからよみやま話もある。他社で気付いた者もない。しばし寝かしておこう。金曜日の夕刻、週末気分もあった。安直に割り切ったところ、とんでもない特ダネを抜かれることになった。

今でも忘れない。翌未明、社からの電話で叩き起こされた。朝日新聞朝刊1面トップ（9月19日付）に「天皇陛下、腸のご病気」手術の可能性も」という6段抜きのスクープが掲

載されていた。アチャー。やはりあれがそうだったのか。後悔先に立たず。その後宮内庁サイドから出たネタだったことはわかったが、あの宮内庁長官の動きを端緒に、組織を挙げて取材していたら、朝日と並べたかもしれない。

それだけのニュースであった。昭和天皇は、その15カ月後、十二指腸乳頭周囲腫瘍、腺がんで死去したが、300万人の国民の死をもたらしたあの戦争と、世界第2位の経済大国にまでなった戦後の復興・発展と、二つの真逆の側面を持った昭和という時代の終わりを含意する歴史的なネタであった。書くべき話を書けなかった、との不全感が残った。

それから30年近くが経過、私は新聞紙面を離れて、サンデー毎日という週刊誌で、週1回の政治コラムを書く身となっていた。ネタにしても



くらしげ あつろう
倉重 篤郎

1953年東京都生まれ 78年東京大教育学部卒 毎日新聞社入社 水戸 青森の各支局整理 政治 経済の各部を経て 2004年政治部長 11年論説委員長 13年専門編集委員を経て 現在 客員編集委員 著書に『日本の死に至る病』（河出書房新社）など

分量にしても、週刊誌というメディアの持つ自由度に新鮮さを感じながら仕事をしていた。

そこに昭和天皇がらみのネタが一つ持ち込まれた。「えー？ 本当」と、頬をつねりたくなるような、以下のものであった。

◆「東條以上の戦争責任者」

1956年12月末、石橋湛山政権発足直後のことである。石橋首相が初の内奏に皇居に赴き、昭和天皇に初組閣の閣僚名簿を示した時のことである。昭和天皇が名簿に岸信介外相とあるのを見て、極めて深刻な表情をして石橋にこう尋ねたという。

「自分はこの名簿に対して一つ尋ねたいことがある。それはどうして岸を外相にしたかということである。彼は先般の戦争において責任がある。その重大さは東條（英機）以

上であると自分は思う」

石橋はこれを聞き、その厳しさに驚き、かつ恐縮し、なぜ岸を外相（副総理格）にしたか百万辞を尽くして了解を求めたという。直前の自民党総裁選の第一回投票で岸がトップをつけたのに対し、決選投票で2、3位連合が成立、石橋が小差で岸を抑え込んだ、との経過があり、政局安定を期すためには岸を重職で登用する必要があった、云々であろう。

それに対して天皇はそれ以上に追及することはなく、「そういうわけなら宜しいが、とにかく彼は東條以上の戦争責任者である」と繰り返し述べたという。

皇居の奥の院での一対一のやりとりがなぜ漏れたか。それは石橋本人

が明かしたからだ。もちろん、世の中に向け大衆的にオープンにしたわけではない。ある特定の人物に向けた私信の中で詳らかにしたものだ。

◆ 出自や思想 相いれぬ二人

石橋は大変な国民人気を受けて首相になるが、病を得て71日間で退陣、後任首相には副総理格であった岸が就任する。岸は石橋とは全く違う路線を歩む。そもそもが、ジャーナリストとして「小日本主義」を唱え、軍部の領土拡大主義を批判したりベラリストの石橋と、革新官僚として満州国の産業開発を主導、戦後はA級戦犯とされながら政界復帰を果たした岸とは出自も思想も背景も相いれないものがある。親中派の石橋、親米派の岸、護憲派の石橋、改憲派の岸と外交路線、憲法観も大きな隔たりがあった。

その岸が政治生命を賭け日米安保改定に乗り出した。国民の間から米国の戦争に巻き込まれる、と猛反発があった。国会が二重三重に包囲され、戦後日本の最大の反政府市民闘争となったのはご承知の通りだ。

退陣して3年余の石橋も、この市民の側に身を置いた。他議員との連名で岸に進言書を提出、首相退陣などを求めている

が、それとは別に岸宛てに送られたのが、この昭和天皇内奏時のエピソードが盛り込まれた私信だった。1960年4月20日付で、国会情勢が緊迫化、安保改定阻止国民会議の第15次統一行動（4月15日〜26日）のさなかであった。私信の趣旨としては、昭和天皇の厳しい見立てを知らせることによって、岸本人の自重と安保改定の延期を求める、という形になっている。

私信は石橋の秘書が岸政権の椎名悦三郎官房長官に手渡したところまでははっきりしている。その後の扱いは不明だ。岸が読んだかどうかはわからない。ただ、石橋側には石橋の手書き草稿1通とそれを清書したもの（私信未完成版）が2通残された。それらは、どこかに紛れ込んでいたが、2015年8月、石橋湛山研究者の増田弘氏が、石橋が社長を務めていた東洋経済新報社の倉庫から発掘した。それが人を介して私の元に送られてきたのである。

これは昭和天皇に関する一級資料ではないか。内奏という形で明らかに政治的発言をしている。岸を東條以上の戦争責任者だと名指しする。天皇の戦争観が伝わってくる。

◆ 昭和は遠くなりけり

ただ、これを字にするには、これ

が昭和天皇の言辞に間違いのない、という確証が必要だ。その手書き草稿が、石橋が脳梗塞のため不自由な左手で書いた独特な草書体であること、それと清書版2通は、ほぼ一対一対応になっていることを確認できた。問題は、石橋が私信の中で昭和天皇と名指しせず、「ある一人の人」「かの一人の人」と書いていることであつた。石橋ともあろう人が、内奏内容を結果的に政治利用したことに違和感が残ったのも事実である。

ただ、ここはもう文脈で読み取るしかない。保阪正康、原彬久氏ら昭和史研究者に読んでもらい、やはりこれは昭和天皇しか考えられない、という言葉をお願いした。

ここはもう書くしかない。サンデー毎日で、歴史文書スクープとして3週にわたって特報した。昭和天皇の「がん手術を書けなかった未達成感が、反転攻勢となった面もあるかもしれない。今回は書きに書いた。もちろん、新聞本紙での勝負も考えた。ただ、「ある一人の人」「かの一人の人」の壁は破れなかった。

それにしても岸は石橋の私信をどう読んだのであろうか。平成、令和と昭和は遠くなりけり、である。だが、我々の世代はまだ昭和史の間隙を埋めることに関心がある。



石橋内閣記念撮影（前列左から岸信介外相、石橋湛山首相、池田勇人大蔵相（1956年12月23日）／首相官邸／共同通信社提供）

2025年(第53回) 予想アンケート結果 (2025年1月31日締め切り) 応募総数 213) 平均=5.4点

	正解	正解率
①12月31日現在のわが国の首相は誰か	(高市早苗氏)	3.8%
②衆参同日選挙が	(行われない)	64.3%
③政府がデフレ脱却を宣言	(しない)	62.4%
④春闘の賃上げ率が前年の実績(連合の最終集計で5.10%)を ※5.25%	(上回る)	67.1%
⑤ウクライナとロシアが停戦に合意し、12月31日時点で停戦が維持されて	(いない)	49.8%
⑥米朝首脳会談が	(行われない)	60.6%
⑦選択的夫婦別姓を導入する法案が国会で成立	(しない)	46.9%
⑧大阪・関西万博の入場者数が3000万人を ※一般来場者数(関係者等を除く)は累計2557万8986人。関係者等も含めた総来場者数は累計2901万7924人。	(超えない)	70.0%
⑨日本国内の最高気温が過去最高(41.1℃ 2020年浜松／2018年熊谷)を更新 ※8月5日に群馬県伊勢崎市で41.8℃を記録	(する)	64.3%
⑩12月31日時点の大相撲の横綱の人数は ※豊昇龍(2025年1月昇進)、大の里(2025年5月昇進)	(2人)	51.6%



最高得点者の瀧山誠さんと下山純さん(左から)



乾杯の音頭をとる老川祥一理事長

新年互礼会員懇親会が1月23日(金)夕、10階ホールで開催され、124人が参加した。
老川祥一理事長はあいさつで「国際情勢、日本の政治情勢も大きな変動期に入っている。メディアの世界もSNSなどで誹謗中傷、デマ、無責任な情報が飛び交

アンケート 最高得点は9点 首相正解率は3・8%



っている。こういう言論空間が混乱している中であればあるほど、新聞・放送が信頼される情報を提供することの意義の大きさを改めて感じさせられる。日本記者クラブの役割も従来以上に重くなっている」と述べた。
続いて「2025年予想アンケート」の表彰が行われた。一番の難問は「12月31日現在のわが国の首相は誰か」で、正解率は3・8%だった。鞍馬進之介さん(読売新聞中部支社)、下山純さん(共



イスラエルのコーヘン駐日大使(左)と日本外国特派員協会(FCCJ)のスローン会長

同通信社)、瀧山誠さん(フジテレビ出身)の3人が9問正解で最高得点者となった。下山さんと瀧山さんが出席し、菅野幹雄企画委員長から賞状と副賞を受け取った。
誤答は首相を当てる質問のみだった下山さんは「高市首相を外したのは残念だったが、全くないと思っていた。首相を当てる問題は一番自信があったが、他は勘が当たった」。瀧山さんは年末の首相を当てる問題に正解。「政党が乱立し、何が起るかよく分からない時に日本の存在を世界にアピールできる人を選んだほうがいい。それは自民党の高市さんかなと思った」と語った。
会見ゲストではグラッド・コーヘン駐日イスラエル大使らが出席、各国大使館からも参加していた。(西村)

マイBOOK
マイPR

『邪馬台国倭国扶桑国統一史』道理と道義の花を咲かせる』

志岐 一郎（九州朝日放送出身）

元軍国少年の総決算

学界・出版界が避ける中国史料。1989年に北京放送に職を得て、あの天安門事件後の2年、複雑・広大な中国を巡り歩き帰国しました。正史とされる日本書紀を疑って70年、考古資料と中国史料から、初代天皇を天命開別命、天智天皇としたものです。

関西、福岡に3回住み、大昔、金沢、仙台に学んだほか、北京、沖縄に通算10年住んでいます。元軍国少年の総決算になりました。



つむぎ書房 1,980円

『ツーリズムの世紀 日本再興の最後のチャンス』

橋高 聡（元日本経済新聞社記者、日経リサーチ顧問）

観光資源大国ニッポンの好機

世界は「ツーリズムの世紀」を迎えた。多くの産業が競争力を失った日本では、観光が経済低迷を脱する切り札になる。だが自然、グルメ、歴史、

文化、マンガ……豊かな観光資源に恵まれながら生かしきれていない。オーバーツーリズムなどの課題もある。では、どうすればよいのか。シンガポール、フランスなど観光先進国の事例や「仕事と旅の融合」など新潮流を紹介し、地域や国、関連産業がツーリズムの時代に飛躍するための方策を考える。



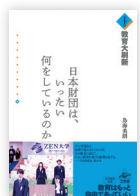
日経BP 日本経済新聞出版 2,530円

『日本財団は、いったい何をしていのか 第十巻 教育大刷新』

鳥海 美朗（産経新聞社出身）

偏差値教育を打破しよう

日本財団グループが、ついに日本の大学教育の構造改革に乗り出した。その柱の一つがZEN大学。KADOKAWAの子会社であるコンピュターエンターテインメント企業を運営のパートナーにした新タイプのオンライン大学である。もう一つの柱は、学生たちが日本を含む世界の複数の都市を巡回、滞在し、社会課題の解決の方策を探る米ミネソバ大学の手法の採用だ。二つの大学の共通点は偏差値至上主義を超越した学びの手法と言っている。



工作舎 2,200円

『償い 綾瀬女子高校生コンクリート詰め殺人事件 6人の加害少年を追って』
山崎 裕侍（北海道放送コンテンツ制作センター報道部デスク）

25年間考え続けた答えとは

「なぜ加害者を擁護する」

「被害者のことを考えろ」

史上最悪の少年事件の加害者を報じると、いつもこのような意見が噴出する。そんな感情を抱く人ほど、この本を読んでもほしい。

私が取材するのは、被害者のためである。私が報じるのは、新たな被害者を出さないためである。私が伝えるものは、あなたのためでもある。子どもを被害者にも加害者にもしないために何ができるか。25年間考え続けた答えとは……。



文藝春秋 1,980円

■会議報告

●第469回会報委員会

（1・7 大会議室）

2月号の編集について協議した。

出席 榊原委員長、田中、森、高橋、成田、勝田、飯山の各委員。

●第568回企画委員会

（1・14 10階ホール&オンライン）

衆院解散があった場合の党首討論

会の開催方式を確認した後、今後のゲスト候補について意見交換した。

●第581回会員資格委員会

（1・13 小会議室）

2月1日付入退会を審議、理事会に答申した。会員の入会拡大策について協議した。

出席 福島委員長、佐々木、清水、松永、池澤、中村、中本、徳永、武井の各委員。

●第737回理事会（書面）

①クラブ賞内規に従い、2026年度日本記者クラブ賞選考委員会を総務委員会委員で構成し、選考委員長を総務委員長が務める件、②2月1日付入退会に関する件を承認した。

〈法人代表変更〉

・南日本新聞社

木脇良知 代表取締役社長（旧佐

潟隆一氏）

・日本放送協会

井上樹彦会長（旧稲葉延雄氏）

・東海テレビ放送

林泰敬 代表取締役社長（旧小島浩資氏）



新しい個人D会員

かげやま ゐのる
■ ■ ■ 蔭山 実



1990年産経新聞社入社。社会部・司法担当、シアトル、イスラマバード各特派員、ロンドン支局長、外信部次長、運動部長、編集局編集長などを経て、2021年10月退社。現在、日本美術協会事務局長。

恩師、海老坪勇氏の招待で訪れて40年、ようやくその足元にたどり着きました。健全なジャーナリズムの継承に挑みます。

すずき まさし
■ ■ ■ 鈴木 誠之



2000年静岡新聞社入社。東部総局編集部、浜岡支局、島田支局長、社会部長兼論説委員兼編集委員、ニュースセンター部長兼論説委員兼紙面審査委員などを経て、25年10月退社。

古巣の上司・同僚の推薦で入会できました。皆さまと交わって学びを深め、若い記者の応援にも努めたいです。よろしくをお願いします。

のづ ぬふとし
■ ■ ■ 野津 修敏



1969年産経新聞社入社。大阪・東京経済部、ワシントン特派員、ニューヨーク、ロンドン各支局長、外信部編集委員兼論説委員。2001年からは日本美術協会で事務局長や顧問を歴任。

20年以上、芸術界の巨匠を取材してきましたが、芸術が持つ癒しの力や社会、世界平和に対する影響について考え続けたいと思います。

みずの ゆうし
■ ■ ■ 水野 裕司



1983年日本経済新聞社入社。日経ビジネス副編集長、産業部編集委員、静岡支局長、論説副委員長、上級論説委員などを経て、2025年12月退社。

フリーの労働ジャーナリストとして活動を始めました。テーマは山のようにあります。発信する内容のレベルアップをめざします。



個人D会員の入会キャンペーンを実施しています。いま新たに個人D会員になると、1年間、会費が半額になります。個人D会員を新たにご紹介くださった方には、クラブの施設で利用可能な食事券・喫茶券あわせて5000円分を贈呈します。ぜひご友人を紹介してください。

詳細は事務局・杉本(03-3503-2727)までお問い合わせください。

日本新聞博物館 2025年報道写真展

東京写真記者協会に加盟する新聞・通信・放送33社の記者が2025年に撮影した報道写真の中から政治・経済・社会・スポーツ・芸術など幅広いジャンルの決定的瞬間を捉えた約300点を4月19日まで展示しています。

<https://newspark.jp/exhibition/>

横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター

電話：045-661-2040



窯焼きの際に敷いたわらが赤い筋となる緋襷、燃え尽きた灰にいぶされてできる棧切……。浮かび上がった模様は味わい深く、趣がある。

岡山県備前市の陶芸家大石茜さん(29)から個展の案内をもらい1月、東京・新宿区のギャラリー「羊と山羊」に足を運んだ。並ぶのは日本六古窯の一つとされる備前焼の茶わんや皿、湯飲みなど約130点。釉薬を使わずに焼成され、素朴な土の風合いと独特の窯変を特徴とする。

意外な作品もあった。あえて釉薬を使い光沢を出したもの、土にコバルトを混ぜて青みを加えたものなど、伝統様式とは一線を画する。「自分なりの新しい試みです。若い世代にも手に取ってほしくて」。大石さんはそう語った。

彼女の経歴はユニークだ。東京出身で津田塾大を卒業後、2020年に宮城県気仙沼市に移住し、地域紙記者として東日本大震災の

震災と土の表現

復興状況を伝えた。陶芸の道に進んだのは23年。旅先で出会った備前焼に心を奪われ、わずか3カ月後に陶芸家に弟子入りした。

「土練り3年、ろくろ7年」といわれる世界。まるで畑違いの記者職からの転身にも驚くが、修行が始まったばかりで新たな表現に挑み、発信しようとするタフな精神はどこから生まれるのだろう。

会場には、瀬戸内海に流れ着いた廃木を土台に、備前焼をラップシェードにした卓上灯も展示されていた。「ゼロからの再出発」を果たした気仙沼の灯火を思い浮かべながら造形したという。

土と火が生み出す作陶は偶然に左右される。ある意味、人間が自然をコントロールできないのと同じだ。「泥にまみれても、黙々と前を向いて歩む被災者の方々の姿が創作の原点」と大石さんは話す。あの日から来月で丸15年。震災の記憶が息づく表現から、力強いメッセージを受け取った。

河北新報社東京支社編集部長

成田 浩二

レストラン* 価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 二月お献立 (2/27まで)

先付前菜：鶯宿梅かゆかけ、いわし梅煮、えび手まり寿司など 猪口：山菜あいませ 椀盛り：ずわいがに真丈 みぞれ仕立てなど 造り：寒ひらめ薄造り 焼き物：かんぱち西京焼き 炊き合わせ：ひろうす、にしん、梅麩など 食事：きょうぶきご飯、味噌汁 甘味：抹茶わらびもち つぶあん (5,500円) (板長：薫田勝)
※仕入れの都合で内容が変わることがあります。

洋食 季節のおすすめコース (2/28まで)

スモークサーモンとオレンジのマリネ 柑橘類のヴィネグレット、かぶのポタージュ、牛フィレ肉のグリル マディラソース、生チョコのテリーヌ、コーヒーまたは紅茶、パンとバター (4,400円)。ランチ、ディナーともに9階レストランでもご提供します。 (シェフ：佐藤和治)

クラブ貸室をご利用ください

日本記者クラブの貸室は、会員の皆さんが自由にお使いになれるスペースです。9階には大会議室、小会議室、会見場(写真)の3室、10階にはホールがあります。10階ホールは人数や用途によって分割した使い方ができます。



社内会議はもとより、社外の方を招いての会議、セミナー、同窓・同期会、懇親会などにご利用ください。お食事とあわせてご利用できる飲み放題プランも用意しております。

貸室の空き状況、利用料金はウェブサイトでご確認いただけます。詳細はフロアマネジャー (03-3503-2724) にお問い合わせください。

HP情報 <https://www.jnpc.or.jp/>

●丹羽宇一郎さん 会見動画公開中

先月86歳で死去した元伊藤忠商事社長で、民間出身として初めて駐中国大使を務めた丹羽宇一郎さんは過去5回(2008年6月、10年7月、12年12月、15年9月、17年10月)、クラブで会見しています。会見動画や会見詳録を掲載しています。



●不破哲三さん 会見動画公開中

先月95歳で死去した日本共産党前議長の不破哲三さんは、記者会見や国政選挙前の党首討論会でこれまで15回登壇しています。2015年11月にはシリーズ「戦後70年 語る・問う」で野党党首からみた戦後保守政治について語りました。この会見の動画を公開しています。



クラブの電話 ダイヤルイン

- 和食レストラン(9階) ☎3503-2723 ●会員事務 ☎3503-2727
- 洋食レストラン(10階) ☎3503-2766 ●経 理 ☎3503-2728
- 貸室予約、宴会打ち合わせ・☎3503-2724 ●クラブ行事への申し込み ☎3503-2722
- 受 付 ☎3503-2721 ●会見申し込みアドレス・kaiken@jnpc.or.jp

会員現況

- 法人会員：121社 ●基本会員：694人 ●個人会員：961人
- 法人・個人賛助会員：54社・114人 ●特別賛助会員：97人
- 名誉・功労会員：11人 ●学生会員：78人 計175社・1,955人

クラブ賞の推薦募集を締め切りました

2026年度の日本記者クラブ賞と同特別賞の候補推薦募集を1月30日に締め切りました。

今後は推薦委員会(個人D会員6人で構成)と選考委員会(総務委員15人で構成)の審査を経て、4月27日の理事会で受賞者が決定します。贈賞式は5月27日の社員総会の日に行う予定です。

ケーブルテレビ情報センターが移転

法人賛助会員の一般社団法人ケーブルテレビ情報センターが下記へ移転しました。

〒104-0033

東京都中央区新川1-4-8 フォーラム島田II 5階
電話 03-6280-5442

会費の領収書送ります

確定申告のため領収書が必要な方は会員事務担当の杉本(03-3503-2727)へご連絡ください。領収書は引き落としごとに発行、1月または12月に1年分をまとめた発行をお選びいただけます。

会見案内 メール登録を

会見の案内はメールで受信されるのが便利です。日時の変更・中止などの急なお知らせは、はがきでは間に合いません。メールではすぐお届けできます。メール登録を希望される方は、お名前と会員番号を下記のアドレスへご連絡ください。OBOG会員の皆さまにもご登録をお願いします。メール：kaiken@jnpc.or.jp

訃報

富永壮彦さん(共同通信社出身、92歳)が昨年12月31日に、ルジャンドル・コイズミ ジョエルさん(個人D会員 フランスRTL放送、69歳)が1月11日に、細矢茂雄さん(日本テレビ放送網出身、93歳)が同27日に死去されました。

ご冥福をお祈りいたします。

今後の行事予定 (2/2現在)

16㊤	15:00～16:30 10階ホール 「2026年経済展望－激動の世界と日本を読む」⑤ 門間一夫 みずほリサーチ&テクノロジーズ エグゼクティブエコノミスト
17㊤	13:00～14:30 9階会見場 「人口減少時代を生きる」⑨ キャリア官僚はなぜ辞めるのか～有意な人材を生かす回転ドア社会実現を 吉井弘和 VOLVE代表取締役、慶應義塾大学准教授
18㊤	13:30～14:30 10階ホール 「人口減少時代を生きる」⑩ 静岡県の多文化共生の取り組み 鈴木康友 静岡県知事

会報委員会

委員長＝榊原 智
委員＝飯山 雅史 勝田 洋人 鴨下ひろみ
佐藤 圭一 高橋 清子 田中 成之
辻 篤子 成田 浩二 堀口由多可
森 一徳

(事務局：西村志織 本庄五月)

☎03-3503-2729 FAX 03-3503-7271

撮影：井 堃 慎太郎 (日本経済新聞社写真映像グループ)



昭和の歌謡曲を扱うレコード店でお目当ての一枚を探す外国人観光客。同店には往年のファンのみならず、若者やSNSを通じて日本の歌謡曲を知った訪日客も多く訪れる＝2025年12月、東京・新宿

「あんたの時代はよかった」

松田聖子さん、中森明菜さん、山口百恵さん……ほぼ同世代でともに生きてきたような感覚がある。でも、昭和の歌謡という大ファンの沢田研二さんだ。

2013年、44年ぶりに沢田さんがボーカルだったグループ「ザ・タイガース」の復活コンサートが東京ドームであり、はせ参じた。今も頭に浮かぶのは、開演前の女性トイレの行列。廊下と階段を埋め尽くしていた。尿意を我慢しつつ男性トイレに誘導してほしいと強く願った。「問題だ」という意識は湧かなかった。

22年、安倍晋三元首相の国葬が日本武道館で執り行われた。この時、「男性トイレに大行列ができています！」とX(旧ツイッター)などで流れた。「漏れそうだ」とつぶやいた国会議員もいた。行列ができたのは、国葬に参列した偉い人は、男性が圧倒的に多かったことによる珍事。この男性トイレの行列はニュースになったけれど、女性トイレの行列はずっと顧みられていなかった。昨年やっと、国会で取り上げられるなどして「問題」となった。政府は解消に向けて関係府省連絡会議を設置。国土交通省は、現状では女性用が男性用より少ない設置数に関する基準の点検・見直しなどを進めている。

女性トイレの行列問題。女性の社会進出が進んでいるにもかかわらず、その存在がないがしろにされてきた昭和の男性中心社会の象徴の一つでなからうか。夫婦同姓、年収の壁……昭和の残滓はまだ残っていると思う。可視化されていないものもあるだろう。「ききわけのない」女になり、「ばかにしないでよ」と「get up」して「走るわ——」。

(毎日新聞社出身 山田 道子)